

北海道えりも町におけるタンチョウの食性に関する事例（短報）

中岡利泰¹⁾

キーワード

タンチョウ、食性、えりも町、

はじめに

北海道内においてタンチョウ *Grus japonensis* はその分布範囲を拡大しつつあり、えりも町においても、近年、観察例が増加してきている。

タンチョウの生息地拡大と定住には、その地域での食性を把握することが重要である。

2018年、えりも町内において、タンチョウの糞を採集する機会を得た。本短報では、採集した糞の内容物などについて報告する。

結果

1) 春の食性

2018年3月27日、28日、4月7日の3日間に、舗装道路上にてタンチョウ2羽の糞14個(図1.)を採集し、内容物を調査し、結果を表1.に示した。

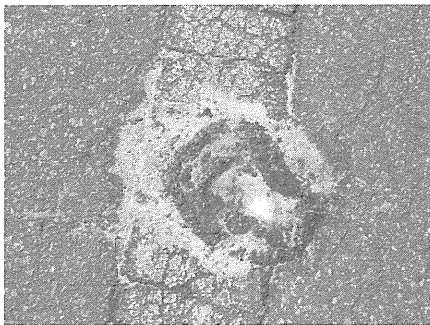


図1. タンチョウの糞

糞14個から、ニホンザリガニ (*Cambaroides japonicus*) 1個(出現率7.1%)、無尾目 *Anura* sp.14個(同、100%)、昆虫類11個(同、78.6%)で確認した。直接観察において、タンチョウがエゾアカガエル *Rana pirica* を捕食することを確認していることから、糞から出現した無尾目は、早

表1. えりも町におけるタンチョウの糞内容物
(3~4月)

No	採集日		餌生物		
	月	日	ニホンザリガニ	無尾目 エゾアカガエル	甲虫類
1	3	28	○	○	×
2	3	28	×	○	×
3	3	28	×	○	○
4	3	28	×	○	○
5	3	28	×	○	○
6	3	28	×	○	○
7	3	31	×	○	○
8	3	31	×	○	○
9	3	31	×	○	○
10	3	31	×	○	○
11	3	31	×	○	○
12	4	7	×	○	×
13	4	7	×	○	○
14	4	7	×	○	○

○:出現 ×:未出現

春に産卵に集まるエゾアカガエルと判断した。糞内容物全量に対する昆虫類の割合は極端に少なかったことから、この時期、タンチョウはエゾアカガエルに大きく依存していると考えられた。

2) 秋の食性

2018年10月3日、タンチョウ3羽が摂餌していた採草地において、タンチョウの糞を5個採取、同所にてキタキツネ *Vulpes vulpes schrencki* の糞1個採集し、内容物を調べた。さらに、同所採草地の摂餌跡において生息する動物種を調査した。

1) えりも町郷土資料館 〒058-0203 北海道幌泉郡えりも町字新浜 207 nakaoaka-toshiyasu@town.erimo.lg.jp

タンチョウの糞5個のうち4個から固形物を確認し、その結果を表2.に示した。

タンチョウの糞からは、オオセンチコガネ *Phelotrupes auratus auratus* を含む甲虫類が4個（出現率80%）、単子葉植物 Monocots sp.の種子2個（出現率40%）が確認できた。

摂餌跡のキタキツネの糞（1個）からは、オオセンチコガネ、センチコガネ *Phelotrupes lavistriatus* トンボ科アカネ属 *Sympetrum* sp. および骨片（2個）を確認した。

摂餌跡に生息する動物種の表採調査の結果を表3.に示した。ミミズ *Oligochaeta* sp.ほか節足動物14種を確認した。

タンチョウが草をはいだ後の摂餌跡にて、地面からはぎ取られた草をめくると、ミミズ sp.を比較的容易に見つけることができた。さらに、ちぎれたミミズ sp.を確認できたことから、タンチョウがミミズを捕食していることが認められた。

考察

タンチョウには筋胃（砂嚢）があることから、摂餌した餌生物が細かくつぶされ、糞内容物に残存しにくいと考えられたが、エゾアカガエルの骨、

表2. えりも町におけるタンチョウの糞内容物
(10月)

No	採集日		餌生物	
	月	日	甲虫類	単子葉植物種子
1	10	3	○	○
2	10	3	○	×
3	10	3	○	×
4	10	3	○ オオセンチコガネほか	○
5	10	3	×	×

○:出現 ×:未出現

表3. 採草地におけるタンチョウの摂餌跡にて

確認した動物種

- 1) ミミズ sp. *Oligochaeta* sp.
- 2) クモ目 sp. *Araneae* sp.
- 3) ワラジムシ *Porcellionidae* sp.
- 4) ヤスデ sp. *Diplopoda* sp.
- 5) トンボ科アカネ属 sp. *Sympetrum* sp.
- 6) ツヤマルエンマムシ *Atholus pirthous*
- 7) ハネカクシ sp. *Staphylinidae* sp.
- 8) ナナホシテントウ *Coccinella septempunctata*
- 9) ウリハムシモドキ *Atrachya menetriesi*
- 10) クワヒョウタンゾウムシ *Scepticus insularis*
- 11) ガガンボ sp.幼虫 *Tipulidae* sp. caterpillar
- 12) フタホシヒラタアブ の蛹（採集後飼育下羽化）
Eupeodes corolla pupa
- 13) ハエ下目の蛹（採集後飼育下羽化）
Muscomorpha sp. pupa
- 14) ヨトウガ sp.幼虫 *Hadeninae* sp. caterpillar
- 15) アリ科 sp. *Formicidae* sp.

昆虫の表皮など、餌生物の一部が糞に排泄されることがわかった。

3月の糞1個から、環境省の絶滅危惧Ⅱ類であるニホンザリガニが出現したことから、ニホンザリガニが生息し、タンチョウが生息できる良好な自然環境が、えりも町内に残されているといえる。

10月の糞、キタキツネの糞、摂餌跡の動物種調査から、キタキツネとタンチョウの餌生物で重複しているのは比較的大型昆虫であるオオセンチコガネであった。タンチョウの行動範囲とキタキツネの行動範囲は一部重複していると考えられるが、今回の調査結果からは、餌生物についての競合は少ないと推測された。

10月の糞2個から単子葉植物の種子を確認したが、タンチョウがこれらの種子を積極的に摂餌しているか、今後、調査を深める必要がある。